

2015年度 ボランティアセンター 自己点検・評価報告書

基準 1 理念・目的

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
(1) 付属機関等の理念・目的は適切に設定されているか						
a ◎高等教育機関として大学が追及すべき目的（建学の精神、教育理念、使命）を踏まえて、当該付属機関・委員会の理念・目的を設定していること。 【約500字】	<p>学生生活支援の理念は、高い社会性・共同参画意識を有する、自立した社会人としての基礎力を有する人材を育成するために、正課外教育の観点から、課外活動を含めて充実したキャンパスライフを学生が送れるように、学生生活全般の充実とそのためキャンパス環境の整備を図ることにある。この理念の下で、明治大学ボランティアセンター（以下、VC）は、正課外教育の観点から、「学生に対するボランティア活動の支援を全学的に推進することにより、学生の社会性及び自主性を涵養し、もって社会に有用な人材を育成することを目的としている。」（明治大学ボランティアセンター規程第1条）</p> <p>1 駿河台VCでは、第1回千代田区防災プロジェクト(CBP)を本学にて、法政大・専修大・CSV(Chiyoda Student Volunteers)と企画し、ダンボールを使った簡易トイレ作り、非常食の試食、災害時にどのような行動を選択するかを話し合うクロスロードを学生のみで実施した。</p> <p>2 和泉VCでは、学生有志によるバリアフリー映画祭を開催し、視覚障がいの方と映画鑑賞やお茶会を楽しむイベントを通してバリアフリーを広めた。企画・運営の他、映画の情景を説明する「音声ガイド」の作成や字幕を音読する「字幕朗読」を学生が主体となって行った。</p> <p>3 生田VCでは、学生が主体となって、近隣の児童館やサイエンスパークにて、子ども向け科学教室を開催した。とくに「科学教室サマープログラム」「かわさきサイエンスチャレンジ実験ブース」では、学生自ら考案した科学実験テーマを用い、当日の設営・進行・運営を行った。また、交流が続く飯館村仮設住宅の方々を招待しての「明大祭までいカフェ」でも、学生が主体となって準備・企画・運営を行った。</p> <p>4 中野VCでは、中国および韓国留学生による語学教室を開催。留学生と日本人との交流を図ることが出来た。</p>					
(2) 付属機関等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか						
a ●理念・目的の適切性を検証するに当たり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。 【約300字】	<p>VC運営委員会におけるVCの理念・目的等の検証作業を、9月および3月に開催するVC運営委員会で行い、これまでの業務検証に加えて、VCの業務と活動実践がVC理念・目的等に照らしての適切性についても検証することとし、2015年度についても実施している。</p> <p>また、各キャンパスVCのボランティア活動支援分科会においても、年に2回以上、定期的な検証作業を実施している。</p>	<p>地域や行政との連携や学生からの自発的な活動に対する支援など、各キャンパスのVCで、企画や活動の数が増え、来室者数および活動者数も全体で20%増となっている。</p>	<p>学生からのボランティア活動の相談や、外部団体からの要請に応えるための人員が不足している。また、学生が相談に来ても駿河台や中野のVCには独自のスペースがないため、活動が制限されている。</p>	<p>ボランティア活動をしている学生に、更に活動を広げるためのアドバイスを行い、来室者の10%増を目標とする。</p>	<p>駿河台および中野に専門知識を有するボランティアコーディネータを配属する。また、併せて独自のスペースを確保する。</p>	<p>現在、兼務で職員がVC業務を行っているが、今後、各キャンパスVCを統括し、企画・運営する専任職員を配置する。また、全キャンパス独自のスペースを確保し、複数の人員を配置する。</p>

2015年度 ボランティアセンター 自己点検・評価報告書

基準 2 教育研究組織

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述
(1) 付属機関等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか					
a ①教育研究組織の設置状況は理念・目的に照らし、適切であるか。学術の進展や社会の要請と教育との適合性について配慮したものであるか。 ●教育研究組織は、当該大学の理念・目的を実現するためにふさわしいものであるか。 【約300字】	<p>明治大学ボランティアセンター（以下VC）では規程を整備している。その中で、センター長は学生部長が務め、学長の下でセンター業務を総括し、センターを代表するなどの権限が規定してある。また、審議機関としての運営委員会とその構成委員、同委員会の下に各キャンパスボランティア活動支援分科会がおかれることが規定され、これに基づいて適切に運営されている。</p> <p>VCに関する事務は、学生支援部学生支援事務室が行う。センター担当（他業務と兼務）の各キャンパス学生支援事務室所属の専任職員4名（4キャンパス）と、ボランティア・コーディネーター2名（和泉・生田）と専らセンター業務に従事する嘱託職員3名（駿河台及び和泉・中野キャンパス各1名）を置いている。</p> <p>和泉と生田キャンパスにボランティア・コーディネーターが1名ずつ配置されたことにより、和泉・生田VCにおいて独自の企画立案や外部団体とのネットワーク形成が一段と進んだ他、他キャンパスと交流する機会も増えており、ボランティア・コーディネーターの存在の重要性が証明されている。</p>				
(2) 付属機関等の教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか					
a ●教育研究組織の適切性を検証するにあたり、責任主体、組織、権限、手続きを明確にしているか。 ●その検証プロセスを適切に機能させて、改善に結びつけているか。 【約500字】	<p>各キャンパスVCにおいて企画されたイベント等については、各キャンパスのVC活動支援分科会で、審議または報告された上で実施している。それらについて、年2回、9月及び3月に開催されるVC運営委員会において、VCの組織の適切性を定期的に検証している。</p> <p>東京6大学ボランティアセンター連絡協議会に参加し、他大学の現状や情報収集や交流を実施した。その他、全国ボランティアコーディネーター研究会への参加や、熊本地震震災ボランティアミーティングに参加し、本学の取り組みに活かしている。</p>				

2015年度 ボランティアセンター 自己点検・評価報告書

基準 8 社会連携・社会貢献

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
(1) 社会との連携・協力に関する方針を定めているか						
a ●社会連携・社会貢献に関する方針を定めているか。 ●教職員・学生が方針を共有しているか。	ボランティアセンターの活動を含む本学の社会連携・社会貢献の方針は、「地域は学生・教員の教育・研究のフィールドであり、こうした地域を含む社会連携・地域連携活動は、大学の質的向上や明治大学のブランド価値の発信・向上につながる有効な取組み」である、というこの間における学長方針に基づいている。その下で学生部及びボランティアセンターは、「明治大学ボランティアセンター規程」第1条の目的を受けて、正課外教育の観点からボランティア活動や課外活動を通じて行われる社会・地域貢献を推進し、その活動が円滑に行われるように指導・助言するとともに、そうした活動のための条件整備を推し進めてきた。 各キャンパスVCにおいて企画されたイベント等については、各キャンパスのVC活動支援分科会で、審議または報告された上で実施している。また、それらについて、年2回、9月及び3月に開催されるVC運営委員会にて、VCの組織の適切性を定期的に検証することで、方針等を共有することができている。	生田VCでは、VCプログラム、VC運営委員・学生発案のプロジェクト、学生サークルや学生有志によるボランティア企画などが生まれ、さまざまな企画が実施されており、大幅に来室者数が増加している。	教職員及び学生への認知度は増加傾向にあるもののまだまだ部分的であり、ボランティアセンター自体の周知が必要である。	各キャンパスのVC運営委員が、キャンパスで行われている学生たちの主体的な活動を見守り支援したり、活動に積極的に参加または同行したり、各キャンパス活動支援分科会にて企画内容を精査することで、より良い企画とし、VC全体で来室者の10%増を目標とする。	教職員に対しては、VCのホームページを充実させる他、全学部専任教員に「明治大学ボランティアセンター活動報告書」を配布し、VCの活動を周知する。学生に対しては、学生主体の立案企画を支援し、学生が学生に声を掛け周知を広げていく機会の増大や、Oh-o! Meijiやホームページなどの広報媒体をより効果的に利用すること等により、ボランティアセンターのさらなる周知をめざす。	「明治大学ボランティアセンター活動報告書」の内容を精査し、より見やすく分かりやすい報告書を作成するほか、WEBサイトでも閲覧できる体制にしていく。学生の主体的な活動を支援する体制を整えていく。
(2) 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか						
a ●方針に沿って、社会連携・社会貢献を推進しているか。	各キャンパスで特色のある活動を展開し、これ自体が自ずと本学の社会連携・社会貢献を推進している。各キャンパスVCの活動は次の通りである。 【駿河台VC】 1 千代田区内の他大との交流による、合同清掃や千代田区防災プロジェクトの企画及び活動への参加 2 神保町応援隊の要請による「神田すずらんまつり」「神保町ブックフェスティバル」への活動参加及びキャップ回収や募金活動 3 猿楽町町内会の要請による花の植え替え 4 ちよだボランティアセンターの要請による、「西神田ファミリー夏祭り」「にぎわい祭り」「福祉まつり」等の運営活動 5 エコキャップの啓蒙イベントである「エコキャップ週間」を開催し、キャップ回収や展示活動、募金活動を実施 6 千代田区と連携して学生・教職員への防災意識を高めるための「災害救援ボランティア講座」を年2回開催 7 首都直下地震にあった場合の対応について考える「防災講座&ワークショップ」を年2回開催 【和泉VC】 1 サークル「くればす」による学食にオリジナルメニューを導入し、1食あたり20円を開発途上国の子どもの給食として寄付する活動を実施 2 サークル「MIFO」による「全商品リサイクル活動」で、難民に送るための古着回収や展示等の啓発活動を実施 3 「くればす」や学生有志による不用品のバザーを学内で開催し、開発途上国での学校建設費用として寄付する活動を実施 4 学生有志による視覚障がいのある方も楽しめる「バリアフリー映画祭」を企画・開催 5 近隣の日本女子体育大学付属二階堂高校で、ボランティアサーク	各キャンパスの活動、あるいはキャンパス相互間での活動を通じて、学生が地域社会と連携することで、高い社会性・共同参画意識を有する、自立した社会人としての基礎力を有する人材育成に繋がっている。 来室者数も全体で20%以上増加している。	学生からのボランティア活動の相談や、外部団体からの要請に応えるための人員が不足している。また、学生が相談に来ても駿河台や中野のVCには独自のスペースがないため、活動が制限されている。	各キャンパス独自企画を充実し、キャンパス相互間での学生の参加を増やすとともに、外部団体との連携を図り、ボランティアセンター全体で来室者の10%増を目標とする。	駿河台および中野に専門知識を有するボランティアコーディネーターを配属する。また、併せて独自のスペースを確保する。	現在、兼務で職員がVC業務を行っているが、今後、各キャンパスVCを統括し、企画・運営する専任職員を配置する。また、全キャンパス独自のスペースを確保し、複数の人員を配置する。

2015年度 ボランティアセンター 自己点検・評価報告書

基準 8 社会連携・社会貢献

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
					(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
	<p>ルに所属している学生が「ボランティア入門講座」活動の体験を発表</p> <p>6 杉並区地域包括センターとの連携による、高齢者施設での「お茶会」に企画・運営で参加</p> <p>7 杉並区福祉会館からの依頼による「初夏の秋川でバーベキュー」や「杉並区福祉会館まつり」に企画・運営で参加</p> <p>【生田VC】</p> <p>1 複数の団体及び学生有志が、難民支援や環境貢献のため衣料品回収を実施</p> <p>2 学生有志により、東日本大震災で被災した小中学生の学習支援を行う「南相馬フリースペース」に参加</p> <p>3 「天文部」による地域の子どもたちと保護者との交流を図る、「七夕観望会」を企画・運営</p> <p>4 近隣にあるかわさきサイエンスパークやかわさき宙と緑の科学館等で小学生向けの科学実験を企画・運営</p> <p>5 福島県相馬郡飯館村の松川第一仮設住宅に暮らす方々との交流を目的とした「までい」プロジェクトを企画・実施し、本学学生との交流を図るため、明大祭に飯館村の方に来ていただき「までいカフェ」を開設・運営</p> <p>【中野VC】</p> <p>1 近隣の大学や警察署・消防署・区役所・社会福祉協議会等の行政と連携し「allなかの防災ボランティア体験デー」を実施</p> <p>2 学生有志団体「なかの一ぱる」による外国にルーツを持つ児童への学習支援活動「なかのハウス」を開催</p> <p>3 サークル「MIFO」による「全商品リサイクル活動」で、難民に送るための古着回収や展示等の啓発活動を実施</p> <p>4 サークル「赤十字奉仕団・クローバー」による学内での献血活動</p> <p>※4 キャンパスで学食に難民の郷土料理メニューを導入する「Meal for Refugees」を実施し、売上の一部を難民支援の活動団体へ寄付</p>					

2015年度 ボランティアセンター 自己検・評価報告書

基準 10 内部質保証

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
(1) 大学の諸活動について点検・評価を行い、結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか						
a ◎自己点検・評価を定期的に行い、公表していること 【約400字】	明治大学ボランティアセンター（以下、VC）では、9月及び3月の年2回VC運営委員会と、これと合わせた形で開催される各キャンパスのVC活動支援分科会において、「明治大学ボランティアセンター規程」第1条の目的に即して活動しているかの自己点検・評価を、定期的に行っている。なお、その公表に関しては、各年度における全学的な自己点検・評価として公表している。	VCの目的を達成するために、各キャンパスのボランティア活動支援も様々なプログラムを立ち上げ、魅力あるイベントを実施している。		学生や教員が企画した活動が増え、VCへの来出者増へ繋がった。また、キャンパス相互間の企画を実施し、学生間の連携と今後の活動への繋がりができたことで、更なる企画を実施する。		
(2) 内部質保証に関するシステムを整備しているか						
a ●内部質保証の方針と手続を明確にしていること。 ●内部質保証をつかさどる諸組織（評価結果を改善）を整備していること ●自己点検・評価の結果が改革・改善につながっていること ●学外者の意見を取り入れていること ●文部科学省や認証評価機関からの指摘事項に対応していること 【800字～1000字程度】	内部質保証の方針と手続が明確になっていないが、VC運営委員会による自己点検・評価の実施が、事実上これに対応している。年2回9月と3月に開催し、これに合わせてVCの活動実践と業務がVCの理念や目的に適合しているかを定期的に検証している。実施された自己点検・評価の結果を、次年度の「教育・研究に関する年度計画書及びこれに関する長期・中期計画書」に反映することで、改革・改善につなげている。		年2回のVC運営委員会による検証をより確実なものとするために、独自の検証システムを構築する。		引き続き、VC運営委員会を半年に1度（9月、3月）、定期的に開催する。	VC運営委員会の課題として、VCの目的を効果的に達成する観点から、定期的に業務、組織、管理・運営を検証するとともに、それを踏まえた計画策定作業を行っていく体制を整備する。半年ごとの業務の検証と、それを踏まえた計画策定を定着させる。VC運営委員会に、自己点検・評価を担当するワーキンググループ等の設置を検討する。